

1. 評価報告概要表

作成日 2008年12月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1071000317
法人名	有限会社ケア・オオカワラ
事業所名	グループホームオリーブ
所在地	富岡市南後箇71-1 (電話) 0274-70-2180

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年11月17日

【情報提供票より】(平成20年 10月 24日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5人, 非常勤 5人	常勤換算 7.075人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	*道光熱費 200円/日・エアコン代 200円/	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	又は1日 1,200円			

(4)利用者の概要(10月 24日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 80.8歳	最低	68歳	最高	90歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	公立富岡総合病院・公立七日市病院・西毛病院・おのざわ歯科医院・大竹外科
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

富岡ICに近く、山間に田畑が続き、民家が点在している自然豊かな環境の中に、木造平屋造りの当ホームがある。玄関は南に面し、庭には芝生が植えられて、敷地と道との垣根はなく開放的で明るい外観である。入居者は日常的に散歩に出かけ、近隣の方と挨拶を交わし、庭の芝生でティータイムを楽しんでいる。時々野菜や果物を届けてくれたり、お茶飲みに立ち寄りたりと、地域住民との暖かい交流が図られており、ホームもそれを大切にしている。職員は、入居者の、その人らしさを大切に、生活支援に熱意をもって取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議に行政が出席されるよう働きかけを行う、入居者の健康状態や暮らしぶりを家族の訪問時のみでなく電話で伝えるようにする、介護計画の見直しは3ヶ月とする等の具体的な改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を職員に説明し、評価結果については掲示したのを見ておくように伝えている。自己評価は、施設長、管理者、計画作成担当者がまとめ、他の職員は直接取り組み過程に関与していない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月毎に開かれている。入居者の状況や行事、自己評価及び外部評価結果等の報告が主な議題となっている。参加者は、行政、地域の方、家族、職員のメンバーであり、参加者に働きかけ意見をもらえるように努力している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等の苦情相談窓口は、入居時の重要項目説明書類に記載され、口頭で説明をしている。玄関に掲示している。また、家族の訪問時に言葉をかけ、入居者の健康や暮らしぶりを伝え、意見要望等への働きかけをしている。出された意見は検討し運営に反映することとしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事や年2回ある町内の道路清掃に職員が参加している。また、毎日の散歩時、地域の方と挨拶を交わし、お花や野菜を持ってきてくれたり、ボランティアの方、演奏グループ、幼稚園児たちの訪問があり地域との交流が図られている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時の理念に加えて、地域の中でその人らしく生活することを謳い、既に実践している。しかし、明示されている理念の文言には、その旨が表記されていない。	○	理念に明示し、掲示する等意識付けが行われることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、会議時など折に触れて理念を職員に伝えている。職員は、地域の方や来訪者を歓待し、地域の方と入居者との交流を大切にするといった理念の実践を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日々の散歩時に近隣住民と挨拶を交わす、また近隣住民がホームへお茶飲みや野菜を持ってやってくるなど日常的な交流が図られている。職員は、町内の道路の清掃に積極的に参加し、ボランティアの受入れや近隣学校との交流を通じ、地元の人々との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、施設長、管理者、計画作成担当者が行っており、職員に評価の意義と結果を提示している。	○	施設長、管理者、職員それぞれが自己評価の一連の過程を通じての取り組みを行うことで、全員が具体的なケアの振り返りと見直しに参加し、介護サービスに対する共通の理解をもてること、また更なるサービスの質の向上に結びつけられるよう期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度、行政、地域の方、家族、職員をメンバーとして開催されている。入居者状況、行事、自己評価、外部評価の結果報告等を行い、参加者から意見を引き出すよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者へ事故報告やホームの状況報告を行っている。今年度は運営推進会議にも参加してもらい、日常的なサービスに関する意見を求めている。行政と共にサービスの質向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態は、主として家族来所時や電話で報告がなされている。金銭管理は、5名の入居者が財布を持ち、買い物の支払いが自身で行える。他の入居者は、必要な日常品購入の場合はホーム側で立替え、利用料に請求書を添え郵送し、支払いを受けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口は、入居時の重要項目説明書に明記され、口頭にて説明がなされるとともに玄関に提示されている。現段階で家族等からの意見はないが、あった場合には直ちに会議で検討し、運営に反映させていくこととなっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営上職員の異動はないが、退職の場合は入居者に報告を行っている。入居者へのダメージを軽減するように十分な職員の確保と新しい職員をフォローするように顔なじみの職員とのローテーションを行うなどの勤務ローテーションの工夫を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県が主催する各種研修会へ参加している。また他のホームの見学研修をおこなっている。年1回、外部から講師を招き、ホーム内研修を実施している。	○	限られた職員のみならず、全ての職員がその力量や段階に応じた研修に参加できるような研修計画の立案が望まれる。またホーム内研修や勉強会の充実により、職員各人の負担の少ない研修機会の確保が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会を通じて、同業者との交換研修を実施し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の希望の方には、本人や家族にホームの見学をしてもらい、事前に雰囲気を知ってもらうようにしている。事前の見学が不可能な方には、職員が自宅や入院先へ出向き、面接を実施し、安心してサービスの利用が開始されるように家族、本人と相談している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活場面において、入居者の意思確認や表情から思いを察するなど入居者中心の生活が流れる中で、歴史の語り部として戦時中のことを聞いたり、昔の地元の生活や食べ物等について教えてもらうなど職員も共に生活を楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけたり、家族から情報を得て一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者は、本人や家族から希望を聞き、職員から情報を得て介護計画を作成している。	○	本人、家族からの希望、身近にいる職員からの情報に加え、必要な関係者と話し合い、また情報、計画を共有することで、チーム全体でのケアの礎となる計画となることが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に計画の見直しをしているが、心身の状況変化が見られた場合には随時見直されている。またそれらについて、本人、家族との話し合い、報告が実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じ、かかりつけ医に受診同行し、受診結果を家族へ報告している。希望する入居者には、職員が散髪を行っている。ホームの専門性を活かし、地域に高齢者デイサービス実施を市に申請中であるが、認可が下りていない。	○	入居者への柔軟な支援はもとより、近隣の高齢者、高齢者を支える家族への支援の実現のため、デイサービス実施の実現を期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム利用前からのかかりつけ医に受診する方がいる一方、そうでない場合は、事業所の協力医がかかりつけ医となっている。協力医は月1回の往診、健康状態の相談に応じており、ホームと連携が図られている。また、その他複数の関係医療機関と連携が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期ケアについて方針が決められており、職員はそれらを共有化している。看取りについてのマニュアルも作成されている。今までに対象となる入居者がいなかったため、ホームの方針やマニュアルについて医師、家族等との話し合いがなされていない。	○	作成された方針やマニュアルについて、関連する医師、また家族との協議や意見交換を行い、ケース発生時にスムーズな支援が出来るよう準備を進めることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーに配慮し、排泄誘導時のさりげない声かけや対応がなされている。個人の記録は、事務室にて保管されており、個人情報の取り扱いには注意が払われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や体操、のんびり過ごす等、一人ひとりのその時の身体状況や気持ちに寄り添い、その人のペースで生活できるように支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が入居者の希望を取り入れながら、1週間の献立を作成している。季節に応じ、近隣住民からもらった、またホームの畑で栽培された新鮮な野菜が食卓に上っている。テーブル拭き等の食事準備や食器の下善等を入居者と共に行い、職員と入居者が同じテーブルを囲って食事を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回が入浴日となっており、輪番制で公平に入浴を行っている。浴室、浴槽は広く、ゆったりと湯船につかり、季節には柚子湯を楽しんでいる。入浴を拒否される方には、言葉かけの工夫と清拭で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみ、おしぼりたたみ、雑巾縫い、居室の清掃等、その人の出来ることを積極的に実施してもらっている。カラオケ、三味線、キーボードに合わせて歌を歌う、計算ドリル、塗り絵、ボール遊び、ゲーム等一人ひとりのそれまでの生活、その日の体調に合わせた支援が実施されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は毎日近隣を散歩したり、時には庭に出てティータイムや外気浴を楽しんでいる。車で近くのスーパーマーケットに買い物に出かけたり、他地域にあるグループホームへ出かけ交流を図ったり、時には小旅行へ出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者、職員は鍵をかけることへの弊害を十分に理解しており、日中時間帯は玄関及び勝手口は鍵をかけていない。入居者は、草むしりや洗濯物干し、日光浴など自由に出入りが可能である。徘徊等が見られる場合には、職員が付き添うなど対応がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施し、うち1回は地元消防署の協力を得て、近隣の方やボランティアも参加しての消火・避難訓練が行われている。食材を備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がおり、献立を作成している。食事、水分摂取についてはチェック表にて記録され、職員は情報を共有しそれに基づく支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が生けられており、ホールは天窓からの採光で明るく、壁には絵画や入居者の作品が飾られている。自然と季節感が感じられるような装飾は、居心地良く、職員の日頃の環境整備への心遣いが感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆箆やテレビ、壁には手作りのカレンダーや慶祝状、写真などが飾られ、その人のそれまでの生活が感じられ自宅を思わせるような居室空間となっている。		